

人とクルマと街の調和のとれた社会を台湾でも

駐車場業界のリーディングカンパニーであるパーク24は今年、台湾に初の海外支店を開設した。

台湾では順調に自動車保有数の伸びる一方で、台北市、台北県などでは深刻な駐車場不足がある。日本で培った独自のノウハウを導入しつつ、台湾の交通事情に根ざした駐車場開発を進めていく。

今回は、日商普客二四(股)有限公司台北分公司の小櫻辰彦総経理にお話を伺った。



日商普客二四(股)有限公司 台北分公司
総経理 小櫻辰彦 氏

御社の概要についてお聞かせください。

弊社は駐車場業界のリーディングカンパニーとして「人とクルマと街と」をスローガンに供給が不足しているこの駐車場業界において、より多くのタイムズを開発することが大きな社会貢献につながると考えこれまで拡大を図り、日本最大の駐車場ネットワークとなりました。2006年4月末現在で14万7,777台の駐車スペースを運営しています。現在、中長期経営計画 Innovate and Impact 2004-2008 として、2008年までに22万4,000台の駐車スペース運営を目標にしております。

台湾での展開はいかがですか？

台北支店は今年4月に開設されました。私を含めて4名のスタッフでスタートしています。

台湾での目標としてはとりあえず2007年の10月末までに10箇所の「タイムズ」(24時間無人時間貸付駐車場)開設を目標としています。基本的には台北市、台北県を中心にして、タイムズの開発に向けた営業を行っていきます。この1年間は、実際

に駐車場を運営してみて、台湾の方が必要とされる駐車場とは何なのかを見極めながらいろいろと経験し、その経験に基づいて色々動かしてみようと思っています。また、今後は台湾でも満車空車情報発信などのIT戦略、商業施設・銀行・ホテルなどの来客用駐車場をタイムズとして運用するTPS運営管理など、日本で培った独自のノウハウを導入していきたいと思っています。

当然、日本の方法をそのまま持ち込むのではなく、台湾にあった方法、台湾のドライバーに喜ばれる駐車サービス工夫するための勉強期間でもあります。

具体的にはどのように駐車場を開拓していきますか？

日本でのスタンダードタイムズの新規土地の開拓は全て自社の開発担当者が、毎日車で地道に回って開拓しています。

土地をお持ちの方と直接話し、駐車場の必要性をご理解いただくことが、長期間駐車場として土地をお借りできる秘訣ですね。

日本企業から見た台湾

このため、台湾でも日本人と台湾人とでペアを組んで台北を回って物件を探しております。

先ほどお話のありました IT戦略とはどのようなものですか？

これは TONIC と言うもので、タイムズを情報センターとオンラインで結ぶシステムです。日本ではモバイルと連動し、携帯電話から満車空車情報をチェックしたり、クレジットカード決済ができるようになっています。また駐車場のメンテナンスに利用しているほか、利用状況は内部の営業用の資料としても有効利用しています。

海外展開はどのように考えていらっしゃいますか？

海外では台湾のほかに、韓国にも今年 3 月、GS カルテックス (30%)、SOMO 石油 (20%)、そして日本の駐車場機器メーカーであるアマノ株式会社 (5%) の 4 社合併で合併会社「GS PARK24 株式会社」を設立しました。そして、既に韓国のベクン (白宮) というところに第一号物件をオープン致しました。

海外での展開は、まずは台湾と韓国という二つの国での営業を固めることが当面の目標です。

何故この二か国かということになりますが、駐車場事業を行うに当たってふさわしい幾つかのポイントがあると考えています。第一に、車が多くて駐車場を利用するのに料金を払う習慣があるところ。やはりモラルとして駐車場を利用する習慣は重要ですね。次に、1 番目のポイントにも関連しますが、違法駐車に関しての法整備や取締りがあること。最後に駐車料金としてある程度の相場が見込めること。タイムズの場合、24 時間無人で駐車場をオペレーションすることになりますので、そのコストが吸収できるかどうかポイントになります。また、政府が駐車場建設を積極的に推進しているかということも大切です。駐車場というのは公共施設の一面も持ち合

わせているので、国や行政が違法駐車、交通問題、都市開発にどのような考えを持っているのかが重要になってきます。

とはいうものの、車を止められるのはドライバー様ですから、そのドライバー様がどのくらい車を大切に思われているかも重要なポイントなのです。大切な自分の車をレッカー移動されたくないでしょうし、路上駐車をして傷つけられたくないでしょう。まさに愛「車」精神といったところでしょうか。その意味では自国で車を製造していることも影響するかもしれません。

こうやって諸条件を見ていくと、台湾、韓国の二か国での可能性が高かったわけです。欧米も十分対象にはなるでしょうが、予想外の問題が生じたとき素早い対応ができるといった意味でも、日本に距離的に近いアジアから取り組むことで、その国、地域の方に喜ばれるタイムズを提供していきたいですね。

貴社は CSR にも積極的に取り組んでいらっしゃるとお伺いしましたが。

駐車場は単なるサービスではなく、社会的なインフラであると考えています。駐車場を整備することで路上駐車が引き起こす様々な問題を解消できると考えています。

路上駐車に伴う交通事故も減らせますし、また、路上駐車の引き起こす交通渋滞を減らし、ガソリンの無駄な消費をなくし、省エネにつながります。また、交通渋滞時の CO2 の排出量を減らすことで環境汚染の改善にもつながります。このようにタイムズを普及させることが快適な車社会の実現につながり、弊社の社会的責任を果たすことになります。このような社会的責任は日本だけではなく、海外でも果たしていきたいと考えています。

ありがとうございました。